

“脳腸相関”を軸に脳機能サポート商品展開へ 乳酸菌+ α で付加価値を高めたOEMにも対応 アドバンス

殺菌乳酸菌のパイオニア的メーカーの(株)アドバンス(東京都中央区)では、近年、認知症やうつ病などの社会的課題への対応として関心が寄せられている“脳腸相関”を軸とした商品展開を積極的に進めている。なかでもオリジナルのサプリメント『160兆個の新鮮細胞 オメガ ω 3クルクミンコッカス』(写真)は、腸活や脳腸相関というワードが話題となったことで注目を集めており、堅調な売上をみせている。

本品には、アドバンスが発見した乳酸菌コッカス菌AD101株、コッカス菌AD302株に加え、脳の働きに係わる必須脂肪酸 α -リノレン酸やDHA・EPAなどのオメガ3系脂肪酸、抗酸化や認知機能を維持するといわれるクルクミンを配合している。

乳酸菌数は1日摂取目安の5粒中にAD101株が710億個、AD302株が45億個含有しており、相互関係にある腸と脳の両方を健康にすることで全身の健康へとつなげるのが狙い。

ネーミングの『160兆個の新鮮細胞』について同社では「腸内細菌が100兆個、ヒト細胞が60兆個といわれ、共生している。腸内細菌とヒト細胞が一体化して機能することで生命や健康を支えることから、ヒトを160兆個の細胞と定義した。コッカス菌はこの100兆個の腸内細菌叢の元気維持を支え、ヒト生命を支えている」と思いを込める。商品の卸販売を中心に、ニーズに応じて付加価値を高めたOEM商品にも対応する。

同社は1973年に健康関連商材のベン

チャー企業として創業し、50年以上にわたって乳酸菌商品を手掛けてきた腸内細菌のパイオニア。



『コッカス菌AD101株』は健康なヒトの腸管から採取しスクリーニングを重ね、選び抜いた菌株をより活性を高める為に特殊熱水処理を行った死菌体。当時としては珍しい死菌体原料の有用性をいち早く見出し、製剤化に成功した。加熱処理によってヒートショックプロテインなどのグロスファクターが放出されることで、体内摂取後、他の腸内細菌の増殖能を高め、より多様性をもたらすことを確認している。菌体では「AD101株 (*Enterococcus faecalis*)」のほか、「AD302株 (*Lactobacillus reuteri*)」、「AD206株 (*Lactobacillus acidophilus*)」、「AD 601株 (*Streptococcus salivarius*)」の4種をラインアップしている。